



元気な地域活動を紹介します

東府相常会「七福神踊り」 の伝承に向けた取り組み

博物館 ☎68♦1881

東府相常会では、コミュニティ活動の一環として、伝統芸能「七福神踊り」の保存と継承に努め、地域の活性化に取り組んでいます。

東府相常会は毎秋、八百富神社のお祭りに七福神踊りを奉納しています。祭礼はふるさとを愛する多くの人々によって支えられてきましたが、時代の移り変わりとともに、次第に参加者も減り、伝統芸能の継承に必要な衣装や道具類を整備することが困難になりつつありました。しかし、この素晴らしい伝統を後世に伝えようと、地域の有志の方々が立ち上がり、保存に向けた真摯な努力が行われています。

そしてこのたび、地域に根付いた活動の活性化をはかるため、財団法人自治総合センターによる宝くじ助成一般コミュニティ助成事業から支援を受け、東府相の七福神踊りに必要な衣装や道具類の整備を行いました。



東府相の七福神踊りは、弁財天を中心とした7神で踊られるもので、はじめは江戸時代の終わりごろと伝えられています。平成20年の八百富神社の祭礼では、新調した衣装や道具類を用いて、今まで以上に熱のこもった踊りを地域の人々に披露しました。

今回、伝統芸能を継承する環境が整ったことによって、今後いっそう地域の活動にはずみがつき、東府相地区一丸となってコミュニティ活動を盛り上げていくことでしょう。

ニートという言葉が世間に広まっている一方で、実態はあまり認知されていません。

私は、今、26歳。駅前商店街の中にある「がまごおり若者サポートステーション」に勤務しています。ここは働いていない若者が働くための、または、次なるステップへの準備をする場所です。

そんな場所に来る若者は世間でニートと呼ばれています。このニートという言葉から皆さん

い、教育を受けていない、訓練を行っていない状態』という意味であり、ただそれだけです。しかし、どうも言葉のイメージが悪い。ニートは、その人の個性・性格を示すものではないのです。いわば大学生、社会人、主婦と同じような意味合いでとって欲しいと思います。世の中には立派な社会人はたくさんいますが、逆に甘い社会人、わがままな主婦、努力が足りない大学生もいると思います。同じ小学生でも、のび太くん

♣ ニートって言ってもね

がまごおり若者サポートステーション 鈴木 康生

はどのようなイメージを持たれるでしょうか。働いていない、ということから働いている人からすればニートと呼ばれる若者をきくと肯定的にとらえることはないでしょう。「働かずに生きていくなんで甘い、わがままだ」と思うかもしれません。反対に、そう呼ばれている若者を支援する側は必ずしもそうではないと言います。どちらが本当なのでしょう。

これは、「どちらも」なのではないでしょうか。なぜならばニートという言葉は『雇用されていな

もいればジャイアンや出来杉くんもいるわけで、『働いていない若者』もいろんな人がいるということです。努力している人もいれば、甘ったれている人もいます。それは人間だから当たり前だと思います。

ニートって言っても、働いていない、ただそれだけ。しかし、そう呼ばれる者としては苦しいものがあるに違いない。それは一時期、私もそのように言われていた時期があるからそう言えるのです。

産業振興課 ☎66♦1119